

2025年3月12日

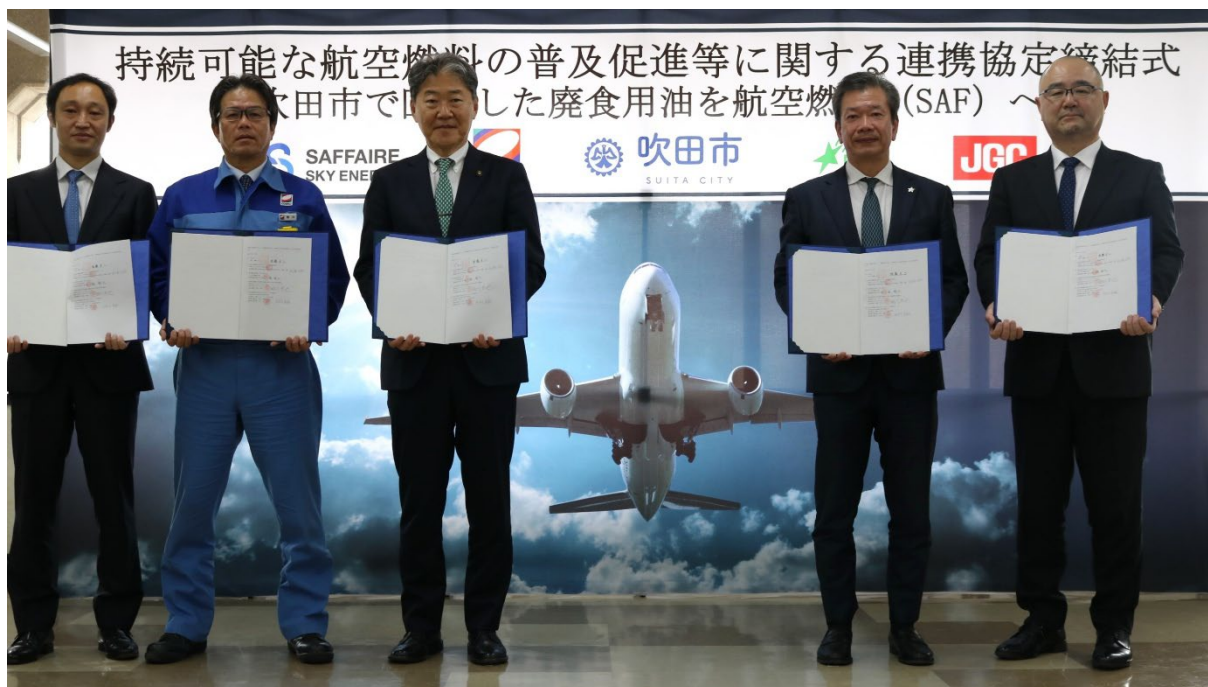
吹田市
日揮ホールディングス株式会社
コスモ石油株式会社
株式会社レポインターナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

吹田市と持続可能な航空燃料の普及促進等に関する連携協定を締結 ～吹田市で回収した廃食用油が SAF に～

大阪府吹田市（市長：後藤 圭二、以下「吹田市」）、日揮ホールディングス株式会社（代表取締役会長 CEO：佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、コスモ石油株式会社（代表取締役社長：鈴木 康公、以下「コスモ石油」）、株式会社レポインターナショナル（代表取締役 CEO：越川 哲也、以下「レポインターナショナル」）および、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（代表者：秋鹿 正敬、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）は、持続可能な航空燃料 SAF (Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」) 等の原料となる使用済み食用油（以下「廃食用油」）の資源化促進を図るため、「持続可能な航空燃料の普及促進に関する連携と協力に関する協定書」（以下「本協定」）を2025年3月12日に締結し、同日、日本初の国産 SAF 大規模製造設備の所在地であるコスモ石油 堺製油所内にて協定締結式を執り行いました。

なお、本協定に基づいて吹田市が SAF の原料向けに提供する廃食用油は年間でおよそ 27,000 リットルを見込んでいます。これは、自治体が SAF 原料に再資源化していく排出量としては、全国で最大となる見込みです。

また、吹田市は家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」に同日付で参加しました。



協定締結式の様子(左から)SAFFAIRE SKY ENERGYの西村勇毅最高執行責任者 COO、コスモ石油の春井啓克取締役常務執行役員 堺製油所長、吹田市の後藤圭二市長、レポインターナショナルの越川哲也代表取締役 CEO、日揮 HDの秋鹿正敬専務執行役員

【協定の趣旨】

吹田市では、吹田市一般廃棄物処理基本計画の基本施策に「多くの市民が参加しやすいリサイクルシステムの構築」を掲げており、平成 21 年より公共施設に廃食用油の回収拠点を設置し、行政回収を実施していました。廃食用油は SAF の原料となる貴重な資源ですが、多くの家庭では廃棄されているのが現状です。そこで、吹田市の廃食用油回収のノウハウを活かし、誰もが利用する可能性のある航空燃料に再利用することで、市民一人ひとりが脱炭素に貢献できることを実感し、脱炭素・資源循環型社会の実現を目指します。また、今回協定を締結した5者で緊密かつ積極的に連携・協力することで、持続可能な循環型社会の形成や脱炭素化社会に貢献します。

【協定の主な内容】

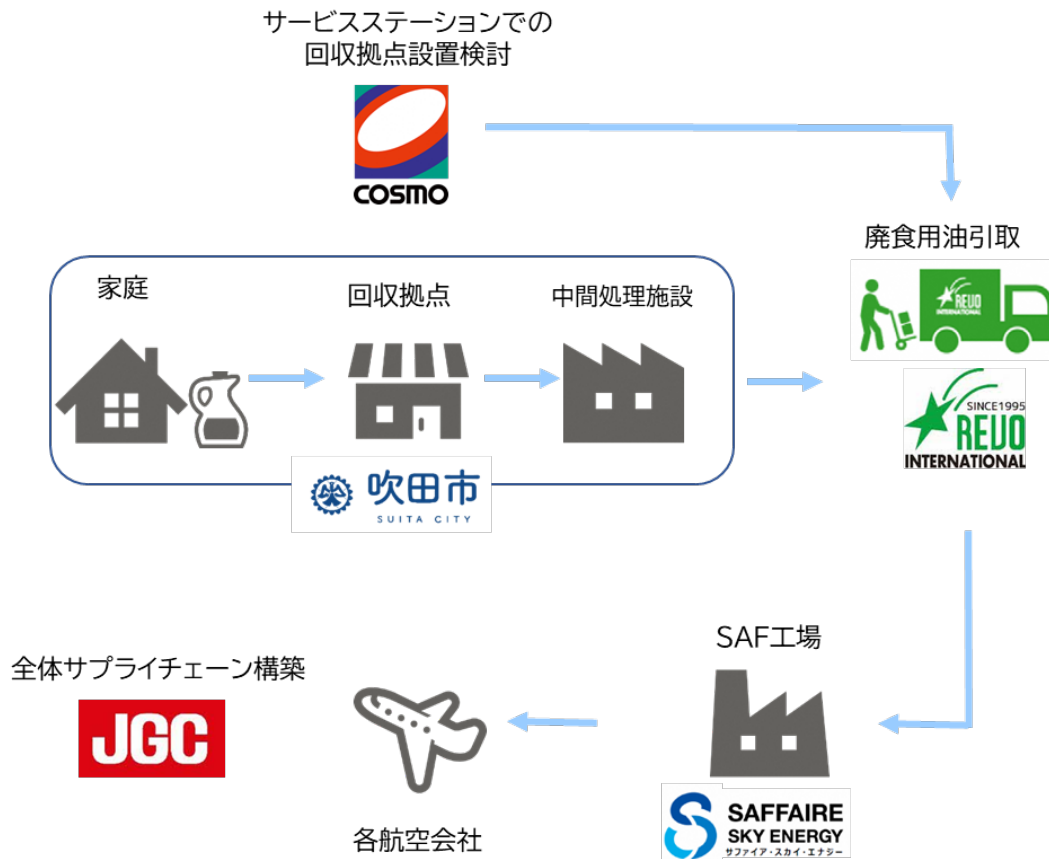
- (1) 家庭から排出される廃食用油の回収に関する事
- (2) 廃食用油を用いた SAF 等の製造及び維持継続するために必要な活動に関する事
- (3) 廃食用油を SAF に再資源化することを広く市民等へ情報発信する機会の提供及び普及啓発活動に関する事
- (4) 吹田市内における新たな回収拠点拡大のために必要な活動に関する事
- (5) その他、本協定の目的を実現するために必要な事

【協定に基づく具体的な取り組み】

吹田市内の市庁舎や図書館をはじめとする公共施設 15 箇所で吹田市が回収した廃食用油をレポインターナショナルが収集し、国内初の SAF 大規模生産を行う SAFFAIRE SKY ENERGY のプラント（コスモ石油堺製油所内、2024 年 12 月完工）へ運び、国産 SAF の原料として資源化します。

加えて、市内 35 の市立小学校および 14 の市立保育園で排出された廃食用油も SAF の原料として活用します。市内で SAF の原料向けに提供する廃食用油は合計で年間およそ 23,000 リットルを見込んでいます。また、併せてコスモエネルギーグループが運営する市内サービスステーション（ガソリンスタンド）での回収も検討します。

また、市民の皆様への廃食用油による資源循環の取り組みを周知するため、廃食用油を持参された方へ抽選で、吹田市イメージキャラクター「すいたんグッズ」の配布や SAF 製造設備見学会への招待を予定しています。さらに、市内の民間事業者への周知や民間事業者と連携しての周知活動の実施を検討します。



【SAF (Sustainable Aviation Fuel) について】

バイオジェット燃料を含む持続可能な航空燃料。原料として廃食用油、サトウキビなどのバイオマス燃料や都市ごみ等を用いて製造するもので、航空機や給油設備の変更をせずとも利用でき、製造から使用までのライフサイクル全体で約 84%の CO2 排出削減効果が得られます。

参考：国土交通省「空のカーボンニュートラル SAF の導入促進 航空機運航分野の脱炭素化」
URL : <https://www.mlit.go.jp/koku/jigyousha.html#saf>

【国内初の SAF 大規模生産事業の概要】

日揮 HD、レポインターナショナルおよびコスモ石油は、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。2024 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、2025 年 4 月頃からの供給開始を見込んでいます。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。なお、本事業は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ : https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html



建設が完了した SAF 製造装置
(コスモ石油堺製油所構内)



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設
(コスモ石油堺製油所構内)

【Fry to Fly Project について】

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。プロジェクトは日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。

特設ホームページ : <https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



Photo by Tatsuya Tanaka